

## 受け継がれる伝統 ～朝の光景～

多くの樹木が生い茂る、附属中学校の校庭。変わりゆく樹々の表情は、私たちに潤いを与え、季節を感じさせてくれます。

4月の桜は新生を歓迎し、新緑の樹々とともに、生徒は附中祭「春」を目指します。中総体、コンクールの時期には、熱く降り注ぐ日差しから、木陰が生徒を守ってくれます。金木犀きんもくせいの香りが漂う頃には、学校中に美しい歌声が響きます。生徒たちは、附中祭「秋」へ向けてまっしぐらです。1月には、武道場周辺が銀杏の葉で黄金色に染まります。これまでを振り返り、次年度に向けて力を蓄える時期です。2月、白木蓮の真っ白な花が、春の訪れを予感させ、同時に、差し迫る別れのときを知らせます。

附中に脈々と受け継がれる、朝の光景。新年度の朝も、変わらぬ光景がありました。朝から竹ぼうきを持ち、挨拶を交わしながら落ち葉を掃く生徒たち。朝のボランティア清掃に取り組む生徒の、清らかな心とさわやかな挨拶が、母校に品性を漂わせています。



## 学級委員任命式を行いました

4月17日(月)、前期学級委員任命式を、全校集会の形式で行いました。

各学級から選出された学級委員24名が一人一人呼名されると、体育館中にはつらつとした返事が響きました。任命式では、各学年を代表し、小野颯太さん(1年)、小畑聡史朗さん(2年)、井上明音さん(3年)に学級委員任命状を授与し、励ましの言葉をかけました。

多くの級友の信頼を得て、大役に就いた学級委員の皆さんにおいては、学級という附中丸の大切な舵取りを、思いを持って力強く、ときにしなやかに推し進め、各学級が掲げた旗印を皆で共有し、日々、前進することを心から期待しています。

また、学級がよりよく成長していくためには、相手のことをよく知って、互いのことを思いやって、考えや気持ちをしっかり伝えようということを意識することが大切です。互いの声に耳を傾け、言葉や行動の表面だけでなく、真意を読み取り、配慮ある言動に努めましょう。

